

海外生活 エッセー

北京事務所

ますます広がる 中国の高速鉄道ネットワーク

(一財)自治体国際化協会北京事務所 所長補佐 高山 直仁 (山梨県派遣)

→ はじめに

日本の面積の約 25 倍、世界第 4 位の広大な面積を有する中国で、近年急速に発達している高速鉄道（高鉄）ネットワーク。今回は、筆者が実際に利用した経験から、中国の高速鉄道についてお伝えします。

→ 中国の高速鉄道の魅力

先日乗車した北京 - 天津間の「京津都市間鉄道」。この路線は、北京・天津間約 115km を約 35 分で結びます。料金は、二等席が 54.5 元（※約 834 円）、一等席が 65.5 元（※約 1,002 円）なので、日本の新幹線と比べると、「安い」と感じられる方が多いのではないのでしょうか。実際の乗り心地も、ゆれも少なく車内は綺麗に清掃され、日本の新幹線に劣らない快適なものでした。

高鉄は、中国の平均的な所得水準を考えると、全ての中国人にとって、まだまだ身近な乗り物とは言えません。しかし、競合する飛行機と比べると、駅が市内の中心から近くにあり、何よりも予定の時間にきちんと到着することから利用する人は多く、例えば北京から上海までなら飛行機（約 2 時間）ではなく、高鉄（約 5 時間）を選ぶという話もよく聞きます。なお、初めて中国の高鉄を利用すると、切符の購入時や乗車時には身分証が必要であることや、

駅への入場時には手荷物検査が行われることなど日本と異なるルールにとまどいますが、すぐに慣れます。



車内の様子（二等席）

→ 今や世界一の高速鉄道ネットワーク

最高時速 300km を越える高鉄は、2008 年 8 月に「京津都市間鉄道」が初めて開業され、その歴史は決して長い



300km を超える速さ！

ものではありません。しかし、その発達スピードはまさに「高速」の名のとおりであり、2015 年には総延長は、1 万 6,000km を超え、世界一の高速鉄道ネットワークになりました。ちなみに、1964 年に開業した日本の新幹線の総延長は、ミニ新幹線と合わせて 3,041km です。

そのような現在の中国の高速鉄道ネットワークを一言で表現する言葉として「四縦四横」があります。「四縦」とは、ハルビン、北京、上海、杭州、深センといった沿岸部の主要都市を南北に繋ぐ 4 つの路線を意味し、「四横」とは、現在着々と建設・開業が進んでいる、沿岸部と内陸部を東西に繋ぐ 4 つの路線（青島 - 太原、上海 - 成都、徐州 - 蘭州、上海 - 昆明）を意味します。中国政府の方針では、この「四縦四横」の建設をさらに進め、2020 年までに高鉄の総延長を 3 万 km まで伸ばす予定とのこと。

ますます広がる中国の高速鉄道ネットワークにこれからも目が離せません。

(※) 1 元 ≒ 15.3 円として計算。